

会 議 録

会議の名称	第4回加東市商工業振興協議会
開催日時	平成31年2月26日(火) 16時00分から17時20分まで
開催場所	加東市役所5階 501会議室
<p>議長の氏名 (会長 宮崎良平)</p> <p>出席及び欠席委員の氏名</p> <p><出席委員></p> <p>・長沼恒雄・村上琢也・金川次男・吉田伊佐見・長谷川妙子・土肥富幸・生頼和也</p> <p>・篠原靖尚・藤川憲二 ※欠席委員 なし</p> <p><特別講師></p> <p>関西学院大学大学院 経営戦略研究科 教授 佐竹 隆幸 氏</p>	
<p>出席した事務局職員の氏名及びその職名</p> <p>・産業振興部商工観光課長 原田幸広</p> <p>・産業振興部商工観光課副課長 藤原 武</p> <p>・産業振興部商工観光課係長 松本裕介</p> <p>・産業振興部商工観光課主査 上山剛史</p>	
<p>協議事項</p> <p>加東市地域経済活性化基本計画の講評及び今後の方向性について</p>	
<p>平成31年3月 4 日</p> <p style="text-align: right;">会 長 宮崎良平</p> <p style="text-align: right;">副会長 長沼恒雄</p>	

1 開会

2 加東市地域経済活性化基本計画の講評及び今後の方向性について

事務局から当計画（策定から実施）について、一括説明した。

佐竹教授から以下とおり講評を得た。

概ね各年基本計画に基づき、適正に事業を遂行したと評価できる。定量的評価の観点から事業実施の成果として約7割の達成率を確認した。定性的評価として企業、地域、産業の3つの観点からも具体的取組をそれぞれ評価できる。

事業実績を踏まえて、今後の加東市の5年から10年先の未来を見据え、以下の課題を示す。

(1) 産業クラスターの形成

大規模なものではなく、地域企業が互いに信頼を得るための仕掛けづくりが必要である。そのための母体（リーダー的企業の存在）が要る。それを軸とし数社かが集うことで資源（人、モノ、知恵）が集積し、その活動の循環と相乗効果が新しいビジネスを生む。市や商工会はそうした活動がしやすい環境や制度等（プラットフォーム）をつくる役割を果たしていくことである。

(2) 伴走型支援について

「伴走型支援」の究極の理念は、自身のために相手を支援することである。地元中小企業の持続的成長を支援することが、地域経済の持続的な発展を促すことにつながるのである。

- ・市・商工会等 → 経営改善、補助制度を含む側面的支援
- ・金融機関 → 中小企業がもつ知的財産を見えるかたちで評価し、融資等につなげる。

(3) これからの環境

- ①「外国人労働者の受入れ拡大」の対応をいかにスムーズに行うか。
- ②グローバル化に伴って、「人、モノ、カネ」の動きが加速し、地域にどんどんと押し寄せてくる。この環境を見据えた取組が必要である。
- ③IoT化により、スマートフォン1台で、すべてが済む時代になろうとしている。「ユビキタス社会（ITでいつでも どこでも だれとでも繋がる社会）」から「アンビエント社会（ITが見えない形で生活に溶け込む社会）」へ進んでいる。
- ④AIに任せる仕事が増え、今ある仕事（業種）が淘汰される。
こうした環境を見据え、今後の施策等を協議する必要がある。

3. 閉会